

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：82723

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00361

研究課題名（和文）1920～1950年代の週刊誌メディアにおける文学テキストと視覚表象の総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive Study on literary works and visual representations of Japanese weekly magazines from 1920s to 1950s

研究代表者

副田 賢二（Soeda, Kenji）

防衛大学校（総合教育学群、人文社会科学群、応用科学群、電気情報学群及びシステム工学群）・人文社会科学群・教授

研究者番号：40545795

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、1922年創刊の週刊誌『サンデー毎日』『週刊朝日』を対象として、その掲載された文学テキストや記事のみならず、誌面における様々な視覚表象やレイアウトの構造と機能を明らかにしたものであり、その考察は、文学、出版メディア、そして表象文化研究に新たな総合的視野をもたらすものである。本研究の論文と戦前期『サンデー毎日』表紙・特別号の視覚表象データベースは、2024年10月刊行予定の研究書『戦前期週刊誌の文学と視覚表象 『サンデー毎日』の表現戦略』（文学通信刊）で公刊される。「読み捨て」される雑誌メディアとして軽視されてきた週刊誌、特に戦前期週刊誌の本質を、そこで総合的に明らかにする予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1922年に誕生した週刊誌は、大衆への影響力が大きかったにもかかわらず、従来の文学・メディア研究では十分に調査、分析がなされてこなかった。特に、戦前期週刊誌に関する研究は非常に少ない。新聞や月刊雑誌研究は盛んであるのに対し、週刊誌研究が未発達であったのは、「読み捨て」される雑誌メディアとしての週刊誌への偏見や軽視があったと考えられる。本研究は、そのような研究史的偏向を修正し、戦前期日本における雑誌・出版メディアの構造と機能をめぐる総合的考察を実現した。そこで作成したデータベースは、文学研究に限らず、表象文化研究や絵画研究、大衆文化やジェンダー研究にも活用可能な、社会的意義の高い研究成果である。

研究成果の概要（英文）："Sunday Mainichi" is the first authentic weekly magazine in Japan launched in 1922, with "Shukan Asahi". This study reveals the actual structure and function of literary works, articles, visual representations and layout of weekly magazines in the pre-war period, and presents a comprehensive perspective for literature, publishing media and culture and representation studies. And we simultaneously created databases of visual representations of "Sunday Mainichi". The essence of weekly magazine as a "one time read thing" media will be elucidated in our book scheduled to be available in October 2024.

研究分野：日本文学

キーワード：週刊誌の視覚表象とテキスト レイアウトの中の文学 挿絵・カット・グラフィズム 「作家」像の生成と消費 敗戦後被占領期の自己・他者表象 戦後週刊誌の「地方」表象と文学 戦時下の「女性」表象 歴史研究との越境的接続

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

1922年に誕生した週刊誌は、大衆への影響力が大きかったにもかかわらず、従来の文学・メディア研究では十分に調査、分析がなされてこなかった。特に、戦前期週刊誌に関する研究は非常に少ない。新聞や月刊雑誌研究は盛んであるのに対し、週刊誌研究が未発達であったのは、「読み捨て」される雑誌メディアとしての週刊誌への偏見や軽視があったと考えられる。戦前期週刊誌の実物を所蔵する図書館も少なく、これまでその内容が検証される機会は少なかった。

本研究と関連する先行研究としての週刊誌メディア研究は、学術的に確立されているとは言えない状況にある。野村尚吾『週刊誌五十年』(毎日新聞社 1973)、『週刊朝日の昭和史』全五巻(朝日新聞社 1989~1990)や高橋呉郎『週刊誌風雲録』(文春新書 2006)等の関係者の証言記録は重要だが、学術的な分析や研究を行ったものではない。週刊誌研究としては、山岸郁子「『文壇』の喪失と再生 「週刊誌」がもたらしたもの」(『文学』2004.11)や日比嘉高「プライヴァシーの誕生 三島由紀夫「宴のあと」と文学、法、ゴシップ週刊誌」(『思想』2010.2)吉田則章・岡田章子編『雑誌メディアの文化史』(森話社 2012)等があるが、その対象はやはり戦後の週刊誌であり、戦前期週刊誌に関する研究は少ない。

戦前期の週刊誌については、山川恭子編『戦前期『サンデー毎日』総目次 上・中・下巻』(ゆまに書房 2007)、『戦前期『週刊朝日』総目次 上・中・下巻』(同 2006)が、戦前期週刊誌研究の端緒として刊行されておりその資料的価値は高いが、その解説文を含めて、基礎資料の整備という段階に留まっており、その掲載コンテンツや誌面構成、雑誌メディアとしての週刊誌の特質の分析は十分ではない。

また、戦前期週刊誌に掲載されている様々な視覚イメージや表象については、断片的に引用、言及されることはあるが、『サンデー毎日』『週刊朝日』という個々の雑誌メディアの特性として検証されることはほとんどなかった。戦前期『週刊朝日』の表紙イメージを検証した柏木博「肖像のフェティシズム 『週刊朝日』の表紙を読む」(『月刊百科』1986.5 『肖像のなかの権力』〔1987 平凡社〕所収)は、『写真週報』等のプロパガンダ雑誌への同氏の研究と共に貴重な研究成果であるが、『サンデー毎日』『週刊朝日』のメディア的特質までに深く踏み込んだ研究であるとは言えない。

### 2. 研究の目的

本研究は、そのような研究史的偏向を修正し、戦前期日本における雑誌・出版メディアの構造と機能をめぐる総合的考察を実現することを目的としている。戦後の大衆社会に深く浸透する「週刊誌」メディアの草創期から発展期にあたるこの時期の実践的研究が不十分であることは、文学研究のみならず、文化研究、社会研究における基礎研究の未開拓部分である。本研究の研究テーマは、その空白を埋める、多くの分野に必要とされる基礎研究を行うものである。

本研究は、1922年創刊の週刊誌『サンデー毎日』『週刊朝日』を対象として、その掲載された文学テキストや記事のみならず、誌面における様々な視覚表象やレイアウトの構造と機能を明らかにするものであり、その考察は、文学、出版メディア、そして表象文化研究に新たな総合的視野をもたらすものである。文学研究の方法的な蓄積を国内外の人文科学研究と接続し、新たな対話と交流の糸口を作るためにも、本研究の学術的・社会的な意義は非常に大きい。週刊誌メディアの終焉が語られつつある現代日本において、従来十分ではなかった週刊誌メディアの歴史的考察を多様な観点から行い、改めて「週刊誌」とは何であったかを考えることは、現代の出版メディアを生み出した歴史的経緯とその構造の解明に繋がる、今日的で実践的な視点を呈示するものである。

### 3. 研究の方法

1922年から1950年代までの週刊誌メディアを、『サンデー毎日』を中心に、その掲載コンテンツを、小説や評論、記事や論考、挿絵やカット画、グラフ記事など様々な角度から分析し、そこでの週刊誌的レイアウトの構造とその表現戦略を解析した。その期間における『サンデー毎日』表紙の全画像データを収集し、そのデータベースを作成した。また、戦前期『サンデー毎日』の全ての特別号の視覚表象を全て網羅したデータベースも作成し、それに基づく分析を進めた。

また、出版メディア史における戦前期週刊誌の誕生やその展開、文学概念や作家像、「文壇」との関わりなど、文学研究の側面からも考察を進めた。また、『サンデー毎日』の視覚表象とレイアウトという視点から、掲載された視覚コンテンツの分析を進め、同時代の社会状況や戦争表象、「美人」画や「女性」像との関わりなど、多元的な考察を協働して進めた。

また、本科研費研究の全体を通して、出版・雑誌メディア研究、文学研究、表象文化研究、ジェンダー研究などの多様な学問ジャンルにおける論文執筆・投稿、研究発表を数多く実施し、その研究成果は、日本近代文学会や昭和文学会などの全国規模の権威ある学会の場でも公開、刊行されている。

また、科研費を活用した研究調査や研究会開催、編集会議を何度も開催し、共同研究として、そして一般社会に公開する文学・雑誌メディア研究として、論文やデータベースのクオリティを高める努力を続けた。そこでは、出版メディア研究や絵画研究、表象研究の領域とも越境的な交流を実践し、多角的な角度からの研究交流を実現した。

#### 4．研究成果

この研究の総合的成果は、最終年度に実施した複数回の研究会や研究調査、資料収集や編集会議を経て、本研究の論文と戦前期『サンデー毎日』表紙・特別号の視覚表象データベースを掲載した、2024年10月刊行予定の研究書『戦前期週刊誌の文学と視覚表象 『サンデー毎日』の表現戦略』（文学通信刊）において、全て公開される。「読み捨て」される雑誌メディアとして軽視されてきた週刊誌、特に戦前期週刊誌の本質を、そこで総合的に明らかにする予定である。また、そこで公刊した論文や概説と共に、作成した膨大なデータベースは、文学テキストだけではなく、週刊誌メディアにおける視覚表象（レイアウト、挿絵、写真、カット画）などの表現構造とコンテンツとの関係構造を総合的に解明するための基礎資料となるものであり、文学研究に限らず、表象文化研究や絵画研究、大衆文化やジェンダー研究にも活用可能な、社会的意義の高い研究成果である。今後、リポジトリとしてウェブ上でも公開し、さらなる社会への研究成果の還元を目指す。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 中村健、荒井真理亜、三浦卓、富永真樹	4. 巻 136
2. 論文標題 戦前期『サンデー毎日』の視覚表象と文学 発表要旨	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本近代文学会 会報	6. 最初と最後の頁 15-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村健	4. 巻 152
2. 論文標題 大正期『週刊朝日』にみえる索引的編集から読み物への変化 - 戦前期週刊誌の基礎研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本出版学会会報	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 副田賢二	4. 巻 21
2. 論文標題 三島由紀夫『作家論』 林房雄	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 三島由紀夫研究	6. 最初と最後の頁 82-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 副田賢二	4. 巻 21
2. 論文標題 三島由紀夫『作家論』 林房雄	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 三島由紀夫研究	6. 最初と最後の頁 82-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村健	4. 巻 51
2. 論文標題 新聞記者・雑誌記者としての子母澤寛 概念としての 編集者 を用いた 書き手 の変容を辿る試論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 出版研究	6. 最初と最後の頁 23-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 中村健, 荒井真理亜, 三浦卓, 富永真樹 (以上パネリスト), 副田賢二 (司会)
2. 発表標題 戦前期『サンデー毎日』の視覚表象と文学
3. 学会等名 2022年度日本近代文学会秋季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中村健
2. 発表標題 大正期『週刊朝日』にみえる索引的編集から読み物への変化 - 戦前期週刊誌の基礎研究
3. 学会等名 日本出版学会 2021年度秋季研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 副田賢二
2. 発表標題 差異を架橋する「メロドラマ的想像力」 戦時下から敗戦直後の大庭さち子と雑誌メディア空間
3. 学会等名 日本近代文学会秋季大会 パネル発表
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 副田賢二
2. 発表標題 「千人針」の表象空間とメロドラマ 前線/銃後を「縫い取る」ということ
3. 学会等名 科研費基盤研究(C)「日本近現代文学におけるメロドラマの想像力の展開に関する多角的研究」第4回研究発表会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 副田賢二, 渡邊英理	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 11
3. 書名 占領期地方総合文芸雑誌事典 静岡地方総合文芸雑誌「田園」「地方文化」「庶民大学通信」「詩火」「東海詩人」の項目	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松村 良  (Matamura Ryo)  (00265571)	駒沢女子大学・公私立大学の部局等・特任教授   (32696)	
研究分担者	天野 知幸  (Amano Chisa)  (40552998)	京都教育大学・教育学部・教授   (14302)	
研究分担者	渡邊 英理  (Watanabe Eri)  (50633567)	大阪大学・大学院人文学研究科(人文学専攻、芸術学専攻、日本学専攻)・教授   (14401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	荒井 真理亜  (Arai Maria)  (90612424)	相愛大学・人文学部・教授    (34421)	
研究分担者	三浦 卓  (Miura Taku)  (90785619)	志學館大学・人間関係学部・准教授    (37703)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関